

## 1998年9月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

北半球500 hPa 高度場をみると、極渦の中心は中央シベリア付近まで大きく南下し、そこでは顕著な負偏差に覆われた。一方、グリーンランド付近には顕著な正偏差が見られた。月を通して極渦は中央シベリア付近にみられ、日本付近が概ね正偏差に覆われるなど北半球規模での循環場の持続性が高かった。熱帯の対流活動はインド洋東部から海洋大陸にかけて先月に引き続き平年より活発、太平洋西部から中部にかけての赤道付近は平年より不活発だった。SOI は+1.0で4か月連続して+1.0以上。

### 世界の天候

#### ① 西シベリアから中央シベリアにかけての低温

#### ② 東アジアの高温

月平均気温はシベリアで低く、特に西シベリアから中央シベリアにかけてはかなり低かった。一方、東アジアではかなり高かった。中央シベリアのハタンガで $-1.9^{\circ}\text{C}$  (平年差 $-3.5^{\circ}\text{C}$ )、中国のエレンホトで $17.6^{\circ}\text{C}$  (平年差 $+4.1^{\circ}\text{C}$ ) となった。

#### ③ マレーシアの高温

#### ④ ヨーロッパの多雨

オランダやベルギー、ギリシャで中旬に洪水被害が

報じられた。

#### ⑤ 中東の高温

#### ⑥ サヘルが多雨

中東・アフリカでは月平均気温がほぼ全域で高く、特に中東やアフリカの地中海沿岸でかなり高かった。降水量はサヘルで多く、中東やマダガスカル南部で少なかった。スーダンやソマリアでは洪水の被害、セイシェル・ナミビアでは干ばつの被害が伝えられた。

#### ⑦ カナダ北東部の高温

#### ⑧ 合衆国から南米大陸北部にかけての高温

#### ⑨ 合衆国南部・メキシコの多雨

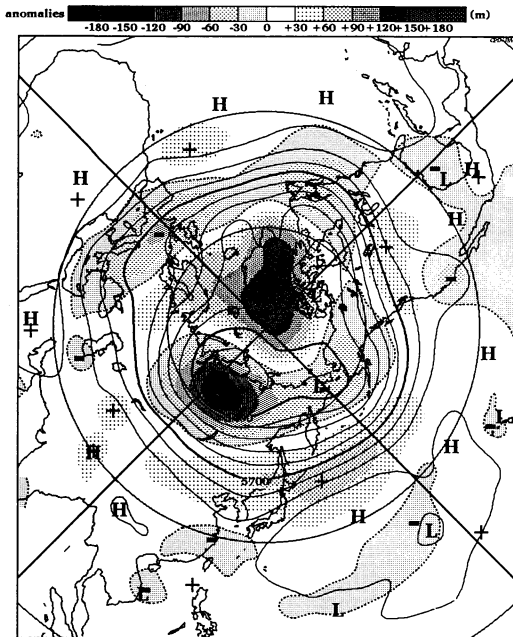
アラスカ、カナダ東部、合衆国南部、メキシコ、カリブ海諸国で多雨となった。カリブ海諸国では、下旬に上陸したハリケーン「Georges」により合計300人以上の死者が出たと報じられた。

#### ⑩ オーストラリア東部の多雨

オーストラリアからメラネシアにかけて降水量が多く、オーストラリア東部では中旬に洪水被害が報じられた。

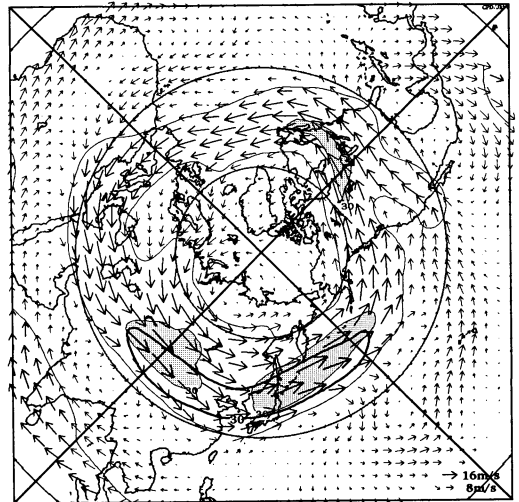
#### ⑪ オーストラリア南東部からメラネシアにかけての高温

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 神野正樹)



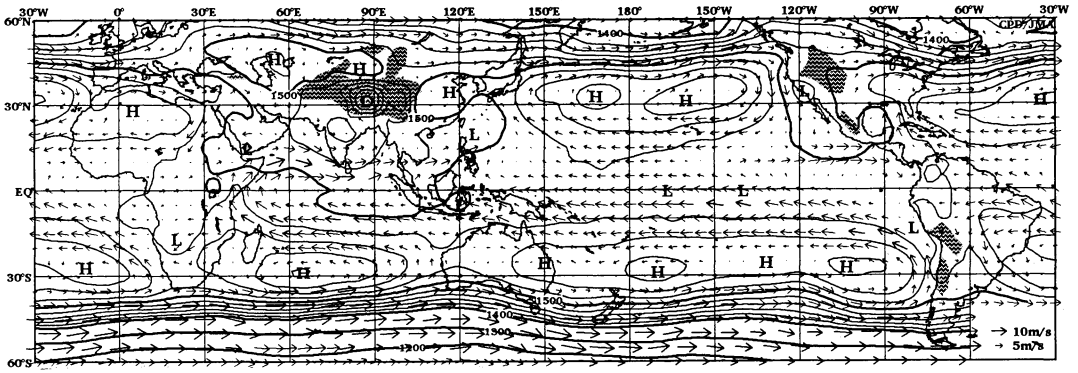
1998年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m, 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。

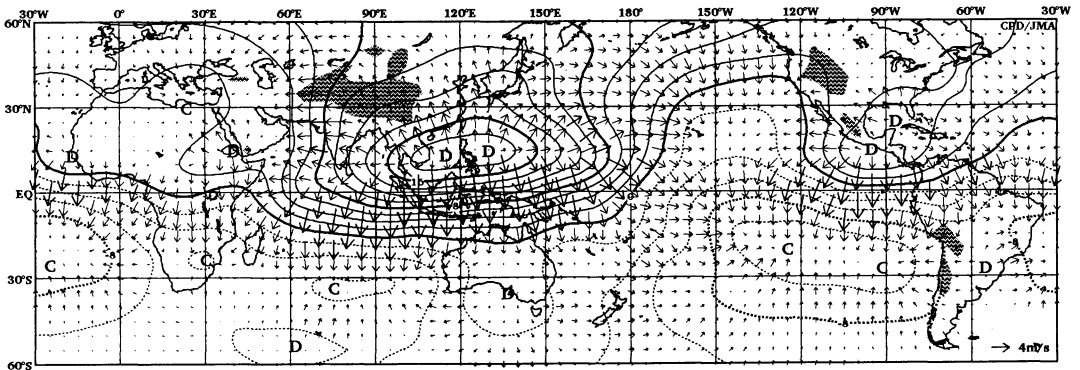


1998年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

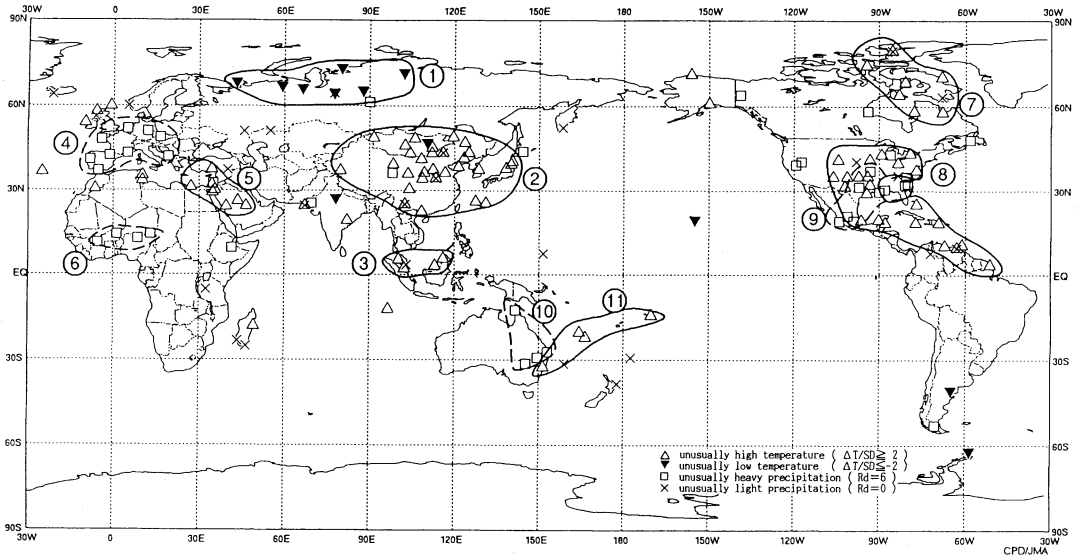
等値線間隔は15 m/s, 陰影部は平年で30 m/s以上, 平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



1998年9月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



1998年9月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1998年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.